

召会（キリストのからだ）のビジョン

聖書：エペソ 1:17-18, 22-23. 4:16. マタイ 16:18. 18:17. I コリント 12:12-13

I. 召会は神の心の願いです。この時代における神の願いは、召会を得ることです——エペソ 1:5, 9, 22-23 :

- A. 召会は、神の永遠のエコノミーにおける隠された奥義です—— 11, 22-23 節. 3:4, 9-11. コロサイ 2:2。
- B. エペソ第3章9節によれば、創造と召会には関係があります。神が万物（人を含む）を創造した意図は、人が神とミングリングされて召会を生み出すことでした——啓 4:11. ローマ 12:2。
- C. 神のエコノミーの中で、召会に対する神の定められた御旨に関して、三つの主要な項目があります：
 1. 召会に対する神の定められた御旨は、召会が子たる身分を持つことであり、また神が円熟した多くの子たちを通して表現されることです——エペソ 1:5：
 - a. 神の永遠の定められた御旨とは、神がご自身をキリストの中でわたしたちの中へと造り込んで、それによって彼がわたしたちと徹底的にミングリングされ、わたしたちを通して表現されることです—— 3:16-17, 21。
 - b. わたしたちは創造される前から、神の子たちになるようにと神によってあらかじめ定められ、しるしづけられていました。このゆえに、わたしたちは神の被造物として、神によって再生される必要があります。それは、わたしたちが神の命を得て、神の子たちとなるためです—— 1:5. ヨハネ 3:3, 6。
 - c. 子たる身分が暗示していることは、単に子の命を持っているだけでなく、子の地位をも持っているということです。神のしるしづけられた者たちは、神の子たちとなる命を持っており、また神を受け継ぐ地位を持っています——ローマ 8:14-15, 17, 29. ヘブル 2:10。
 2. 召会の対する神の定められた御旨は、神の知恵を召会を通して敵に知らせ、召会を通して敵を対処することです——エペソ 3:10. 創 1:26：
 - a. 召会は、神の多種多様の知恵が天上にある支配たちや権威たちに知らされるための手段です——エペソ 3:9。
 - b. 神のエコノミーの中で、召会は神の最大の誇りであり、それを通して神は彼の多種多様の知恵を神の敵に知らせ、神の敵に恥をかかせ、神の敵を打ち破ります—— 10 節. ローマ 16:20。
 - c. わたしたちは、主がどのように召会を用いて彼の敵を打ち破り、地を回復するかのビジョンを必要とします——創 1:26-27. 啓 11:15. 12:10。
 3. 召会に対する神の定められた御旨は、キリストの中で召会を通してすべてのものをかしらにつり上げることです——エペソ 1:10, 22：
 - a. エペソ第1章22節は啓示していますが、このかしらにつり上げることは召会に対してです。それは、召会がかしらであるキリストのすべてのものにあずかるためです。

- b. 召会は、キリストがご自身を命としてわたしたちの中へと造り込み、わたしたちが光で満たされることを通して、すべてのものがキリストの中でかしらに引き上げられるためにあります—— 10, 22-23 節。
- c. 召会はこの命によって建造され、わたしたちはキリストの頭首権の下で、命の光の制御を受けます—— 4:15-16. ヨハネ 8:12. コロサイ 1:13。
- D. 召会は宇宙的であり、また地方的です——マタイ 16:18, 18:17。
- E. わたしたちは召会のビジョンによって捕らえられ、代価を払ってこのビジョンによって支配され、このビジョンにしたがって生活する必要があります——使徒 26:18 前半. ローマ 12:2。

II. わたしたちは召会のビジョンを見た後、からだのビジョンを見る必要があります——エペソ 1:17-18, 22-23. 4:16. ローマ 12:5. I コリント 12:13, 27 :

- A. キリストのからだは、召会の内在的な意義です——エペソ 1:22-23 :
 - 1. 神の召会は骨格であり、キリストのからだは有機体です :
 - a. もしからだが無ければ、召会には意義がありません。
 - b. からだが無ければ、召会には意義がありませんが、からだがあれば、召会には内在的な意義があります。
 - 2. もしわたしたちが自分たちのことを個別の召会や個別の信者と考えるなら、わたしたちはおしまいです。わたしたちは自分たちのことを一つからだと考えるべきです——ローマ 12:4-5。
- B. キリストのからだは、三一の神とキリストにある信者たちとの神聖な構成です——エペソ 4:4-6 :
 - 1. 父、子、霊と、人は、共にブレンディングされ建造されて、キリストのからだとなります。それは、四一の団体の有機的な実体です—— 4-6 節。
 - 2. キリストのからだの建造は、三一の神と三部分から成る人の、神の霊と人の霊の中にある構成です—— I コリント 6:17. ローマ 8:16。
 - 3. キリストのからだは有機体であり、一面で神性を持ち、もう一面で人性を持って、キリストを表現します——エペソ 1:23。
- C. キリストのからだは、神がご自身の行政を執行するための手段です——ローマ 12:4-5. エペソ 1:22-23. I コリント 12:12-13, 25, 27 :
 - 1. キリストのからだは、神の行政と徹底的にまた絶対的に関係があります。キリストのからだから離れて、神にはご自身の行政を執行する手段はなく、道もありません。
 - 2. 神の永遠の定められた御旨は、救われ再生された一群れの民を得て、彼らが一となって、有機的なからだとなり、彼の行政を執行することです——エペソ 3:10-11. 4:16. I コリント 1:2. 12:12-13, 27。
 - 3. キリストのからだ(召会)は、キリストが地上で行動するためです。かしらは今、からだを通して神の行政を施行しています—— 11:3. 12:12。
- D. キリストのからだは、団体のキリストです—— 12-13 節 :
 - 1. I コリント第 12 章 12 節の「キリスト」は、個人のキリストではなく、団体のキリスト、からだ・キリストです。

2. 団体のキリストは、かしらであるキリストご自身と、彼のからだである召会と、それと共に彼の肢体であるすべての信者たちから構成されています——使徒 9:4。
 3. キリストにあるすべての信者は、有機的に彼と結合されており（ローマ 12:4-5）、彼の命と要素で構成されており（コロサイ 3:4, 11）、こうして彼のからだ、有機体となって、彼を表現します。このゆえに、キリストはかしらであるだけでなく、からだ（団体のキリスト）でもあります—— I コリント 12:12。
- E. キリストの唯一のからだ、すなわち宇宙召会は、多くの地方で地方召会として表現されます——コロサイ 4:15-16. エペソ 4:4. 啓 1:4, 11 :
1. 一つからだとは、神の一つ召会であり、それは多くの地方召会として現されます——マタイ 16:18. 18:17. エペソ 1:22-23. 2:21-22. I コリント 1:2。
 2. 地方召会は、キリストのからだが特定の地方で表現されたものです—— 2 節. 10:32 後半, 17. 12:12-13, 20, 27。
 3. 地方召会は、存在においては多いのですが、宇宙的には要素において依然として一つからだです。地方召会は、宇宙的にも、教理的にも、実行的にも一であり、また一であるべきです——エペソ 4:4. I コリント 4:17. 7:17. 11:16. 14:33. 16:1。